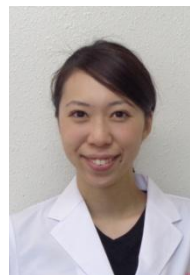


## 和歌山病院での臨床実習



松井 恵利香

今回、呼吸器内科のポリクリの一環として和歌山病院で実習をさせていただきました。私は御坊に行くのは初めてでしたが、自然がたくさんで空気も綺麗で私が想像していた以上に素敵なところでした。

実習では、講義や病院案内などを南方院長や駿田副院長にさせていただきました。和歌山病院には、結核病棟があることが特徴の一つで、結核の主に感染方法についての知識を学びました。教科書などで、『結核は空気感染をする。』と頭では理解していても、実際にどうやって感染を防ぐのか、逆に意味のない感染対策をしていないか、など具体的な感染対策法を挙げることにより、より理解を深めることができました。

また、N95 マスクを装着し結核病棟の中を見学させていただきました。初めて着ける N95 マスクは予想していたよりも苦しくはありませんでした。しかし、私たちはほんの 10 分程度の見学の間だけでしたが、これを装着しながら業務にあたる医師や看護師の方々は息が苦しくなることは容易に想像できました。和歌山病院の結核病棟は新築されたこともありとても綺麗で明るく、暗いイメージを一切抱かせませんでした。陰圧・陽圧管理もしっかりしており、さすが結核に特化した病棟だなと感じました。また、患者さんが服薬を正確にしているか管理するという DOTS も実際の患者さんの服薬の場を見学させていただきました。結核には多剤併用ということは講義でも学んでおり知っていましたが、その錠剤の数の多さに驚き、とても印象に残っています。

南方院長による胸部レントゲンの講義では、じっくりと自ら考える楽しみを再度感じさせていただきました。私は胸部レントゲンに苦手意識がありましたが、どうして白黒の像が出来るのかという根本を論理的に理解することで、そこからは自ら考えればすべて説明できることを熱心な南方院長に教えていただき大変感謝しています。

2 日間に満たない大変短い期間ではありましたが、とても充実した実習となりました。和歌山病院の先生方、スタッフの方々には貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。